さくら並木

白石川右岸河川敷整備の実現を目指して

大河原町長　齋　清志

長年の課題であった給食センターもいよいよ建設着工となり、来年の夏休み明けにはハイグレードな調理設備による給食の提供が始まります。また、今年度の国の第一次補正予算の成立を受け、小中学校のエアコン整備事業の早急な着手のための議会の議決（実施設計委託）をみたところです。さらに現在、基本計画策定中の桜保育所の新設や、県とのコラボ事業として進める白石川右岸河川敷整備事業の実現を目指すこととしています。今月は、上大谷地区の神谷踏切から大河原橋までの2・6㌔を対象としたこの計画について、事業の視点と検討の経過の説明をさせていただきます。

先日、『自転車を活用したまちづくりを推薦する全国市区町村長の会』の設立総会に出席してきました。今、地方自治体はまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立により、地域資源を活用して地方に新たな人の流れを生み出すために、独自性を活かした施策の展開を進めています。

本町でも、これまでの歩きたくなるまち推進事業や先日オープンした中央公民館のリニューアルによる大河原町にぎわい交流施設事業などが、地方創生の理念に基づくものとなっています。そして、この河川敷整備事業も、観光・健康・環境・経済・交通といった様々な分野に波及効果をもたらす取り組みとして、地方創生事業に位置づけられないか考えているところです。また、この計画に合わせて健康づくりやサイクルツーリズム、さらには人のつながりによる新しい文化の普及と経済効果への期待を込めて、自転車の活用によるまちづくりにも着目しています。

これまでは、本町の持つ特徴を活かすとして、中心性・拠点性・利便性を取り上げながら町全体のブランド化を図り、町の垣根を下げて連携することに目を向けてまいりました。また、広域的には柴田町との一目千本桜ブランド化事業や宮城インバウンドDMOに積極的に参画してきたところです。白石川周辺は、本町にとっての唯一の通年観光になり得る資源であり、整備されれば数多くの絶景スポットや親水護岸整備による公園やイベント・スポーツなどの広場をつくることになるはずです。堤外地（河川敷）は県が整備し、堤内地（田んぼ側）は町が整備することとなりますが、コラボ事業の意義にのっとり町民の皆さまのご意見もしっかりと反映させてまいりたいと考えています。

この河川敷整備事業は、仙南の中心に位置する本町にとっての象徴的な役割を果たすことになることでしょう。そして、人口減少と少子高齢化が同時に進行するこの地域にあって、人と人・人と地域・地域と地域をつなげるロマンに満ちた計画となるはずです。第6次長期総合計画の町の将来像となる『ひと・まち・桜が咲きほこる先進のまち』にふさわしい事業となるようつなぐ、にぎわう、ふれあうをキーワードに確かな整備を図ってまいる所存です。町民の皆さまのご理解ご協力を切にお願いいたします。（11月19日記）

学び舎通信

町内小中学校の情報を毎月お届けします

大河原小学校

心を育む ～地域・保護者と共に～

「学校でベルマークを集めていることを学校便りで見ました。お持ちしていいですか。」

先日、このようなお電話を地区の方からいただきました。**本校が地域の方々に見守られ支えられていることを改めて実感しました。**

今年度も、見守り隊や学校支援ボランティア、保護者の方々からたくさん御協力・サポートをいただいています。11月はPTA専門委員やボランティアの方々と緑化委員会、ベルマーク委員会の児童が一緒に作業を進めました。

今後も学校像として掲げる「子どもが輝く、地域と連携した学校」を目指していきます。

大河原南小学校

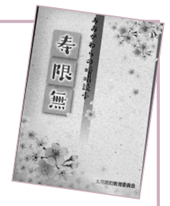
たくましい心と体を目指して

11月2日に校内持久走記録会を行いました。1・2年生が800m、3・4年生が1200m、5・6年生が1500mの距離を走りました。子どもたちは自己ベストの記録を目指し、少しでも順位をあげようと本気になって走りました。**歩きたくなる気持ちに負けず、自分のペースを必死に守って走る姿から成長を感じることができました。**

これからも、**「走れ南小」に継続して取り組むよう子どもたちを励まし、たくましい体と最後まであきらめない強い心を育んでいきます。**

応援に来ていただいたご家庭の皆さま、地域の皆さま、ありがとうございました。

暗唱大好き　金小編



金ケ瀬小学校では、休み時間を利用して暗唱活動を行っています。子どもたちが一生懸命暗唱して覚えた文章を、担任の先生の前で発表し、合格すると金色のシールがもらえます。そのシールを自分の「あんしょうがんばりカード」に貼ります。

暗唱活動で使っている「おおがわら暗唱読本」は、低学年用として25話収録されています。金ケ瀬小学校に入学して7か月が過ぎた1年生は、**友達と楽しみながら暗唱に取り組み、半分以上の話を暗唱することが出来ました。**学級活動等で発表するときは、自分たちが覚えた話を、挿絵を交えるなど工夫を凝らした発表をする子もいます。

金ケ瀬小学校の子どもたちは暗唱が大好きです。

駅前図書館今月の新刊　まちの本棚

一般▶ 大相撲の不思議　内館 牧子：著　【潮出版社】

なぜ女性が土俵にあがってはいけないのか？左手で手刀を切ってはいけないワケとは？女性初の横綱審議委員を務めた著者が、相撲史をベースに、大相撲の面白さや不思議さを紹介する。月刊『潮』連載を加筆・修正して新書化。

小説▶ 銀河食堂の夜　さだ まさし：著　【幻冬舎】

謎めいたマスターが旨い酒と肴を出す、四つ木銀座にある風変わりな飲み屋を舞台に繰り広げられる、不思議で切ない連作長篇。「初恋心中」「小さな幸せ」など全6篇を収録。『小説幻冬』掲載を単行本化。

児童▶ 理科のお話 366　小森 栄治：監修　【PHP研究所】

「やいたおもちがふくらむのはどうして？」「液晶（えきしょう）テレビってどんなしくみで映像をうつしているの？」理科の基本知識が身につくとともに、身近な自然現象や生活体験の「なぜ？」がわかる、ふしぎと発見がいっぱいの366話を収録。お話についての理解度をチェックできる「おはなしクイズ」付き。

絵本▶ かぜのひ　サム・アッシャー：作　吉上 恭太：訳　【徳間書店】

あさ、めがさめると、かぜがふいていた。そとにいって、おちばをけっとばしたり、かぜにのってとびあがったりしたいな。おじいちゃんは、たこあげをしようっていうけど、たこはなかなかみつからない。かぜがつよくなってきたころ、やっとたこがみつかった。さあ、こうえんにしゅっぱつだ！つよいかぜのふくひのわくわくをえがいたえほん。